シラバス参照

タイトル「**2023年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目ナンバー | SSCS2339 | | |
| 科目名 | チームマネジメント論 | | |
| 担当教員 | 大嶋　康弘 | | |
| 対象学年 | 2年,3年,4年 | 開講学期 | 前期 |
| 曜日・時限 | 火３ | | |
| 講義室 | 1310 | 単位区分 | 選,選必 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 専門 | | |
| 科目中分類 | 専門基礎 | | |
| 科目小分類 | 専門基礎 | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | ■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連<br>ＤＰ１－Ｅ〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。<br>ＤＰ４－Ｆ〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。<br>ＤＰ４－Ｉ〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。<br>■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連<br>Ｅ１　学識と専門技能（50%）<br>Ｆ１　探求と論拠（25%）<br>Ｉ１　理解・分析と読解（25%） | | |
| 教員の実務経験 | ニュージランド国での陸上競技クラブチーム勤務、国内スポーツメーカー（ニシ・スポーツ）勤務、日本陸上競技連盟の勤務などを通じ、約25年間様々なスポーツの現場において事業を展開してきました。本授業ではスポーツ組織、スポーツチームの管理運営について実務上の知見、経験を活かし講義をしてゆきます。（第12回、第１３回、第14回） | | |
| 成績ターゲット区分 | ■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応<br>２進行期～３発展期 | | |
| 科目概要・キーワード | スポーツ活動におけるコーチの役割には競技パフォーマンスに直結する，試合やトレーニングにおけるテクニカルな指導の他に戦略的経営者としてチーム組織のマネジメント活動があります。本講義では，コーチのこのような役割，具体的には①組織内でのリーダーシップや対外的な渉外者としての役割，②意志決定の情報役割としてのモニター，③決定役割としての経営者的上級マネージャー等について種目横断的観点から学修します。<br>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するため、オンライン授業を一部取り入れます。<br><br>■キーワード　チーム、コーチ、リーダーシップ、マネジメント | | |
| 授業の趣旨 | ■副題　チームマネジメントの基本的概念や特徴および環境や対象に応じたマネジメントの実践事例について理解しましょう。<br>■授業の目的<br>競技スポーツにおけるチームマネジメントの基本的概念や特徴および環境に応じたマネジメントの実践事例について理解することを通して、自身の競技力向上やチームマネジメント活動を最適化する能力を身につけるための基礎知識を得ることを目的とします。<br>■授業のポイント | | |

| | |
|---|---|
| | 一般に、スポーツ活動におけるコーチングの目的としては競技力の向上と人間力の育成というダブルゴールが設定されますが、その両者を促進するためには、個（プレーヤー）に対するコーチングはもとより、集団（チーム、クラブなど）としての相乗効果を引き出す戦略的経営者としてのマネジメント活動が不可欠です。本講義では、コーチの戦略的経営者としての役割等について、種目横断的観点から学修します。 |
| 総合到達目標 | ■自身の競技力向上やチームマネジメント活動を最適化するための学識・専門技能を高めるために、チームマネジメントの基本的概念や特徴、環境に応じたマネジメントの実践事例について理解することを通して、集団（チーム、クラブなど）としての相乗効果を引き出す戦略的経営者としてのマネジメントについての専門的な知識を修得する。<br>・チームの構造と機能、チームワークおよびチームマネジメントの基本的概念について説明できる。（第2～6回）<br>・チームマネジメント活動に関する基礎的な知識や理論について説明できる。（第7～8回）<br>・チームマネジメント活動に関する実践事例の特徴について説明できる。（第9～13回）<br>・学修した内容を自身の（セルフ）マネジメント活動と関連づけ、その質的向上のための改善点について考察できる。（第14～15回） |
| 成績評価方法 | ■リアクションペーパー4回（60%）：適用ルーブリック Ｆ1、 I1<br>（評価の観点）授業の内容を理解してうえで、自身の体験・経験と関連付けながら自分の考えについて記述できているかを評価します。<br>（フィードバック方法）授業時間中に優れたリアクションペーパーの内容紹介と解説を行います。<br>■レポート1回（40%）：適用ルーブリック Ｅ1<br>（評価の観点）当該単元全体の理解度を評価します。<br>（フィードバック方法）授業時間中に優れたレポートの内容紹介と解説を行います。 |
| 履修条件 | 特にありません。 |
| 履修上の注意点 | 特にありません。 |
| 授業内容 | |

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1 | ①授業テーマ<br>オリエンテーション（全体テーマおよび進め方の説明）<br>②授業概要<br>本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。<br>③予習（120分）<br>シラバスの内容を一読し、図書館等にある参考書を活用して授業内容の全体像を把握する。<br>④復習（120分）<br>講義ノートを確認し、授業の全体像や評価等、自分の学習計画などについて確認する。 |
| 2 | ①授業テーマ<br>チームとは何か<br>②授業概要<br>集団とチームの違いやチームと呼ぶための条件についての学識を深めるとともに（Ｅ1）、その特徴について述べることができるようになる（Ｆ1、 I1）。<br>③予習（120分）<br>参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、集団とチームの相違に関する要点について整理する。 |
| 3 | ①授業テーマ<br>集団の構造要素と機能①<br>②授業概要<br>これまでの日本型集団の問題点や集団の構造要素における役割・地位構造についての学識を深めるとともに（Ｅ1）、その特徴について述べることができるようになる（Ｆ1、 I1）。<br>③予習（120分）<br>参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、役割・地位構造に関する要点について整理する。 |
| 4 | ①授業テーマ<br>集団の構造要素と機能② |

| | |
|---|---|
| | ②授業概要<br>　集団の構造要素の中のコミュニケーション構造、ソシオメトリック構造、勢力構造および集団の機能における成員性と凝集性などについての学識を深めるとともに（E１）、その特徴について述べることができるようになる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、コミュニケーション構造、ソシオメトリック構造、勢力構造および成員性に関する要点について整理する。 |
| 5 | ①授業テーマ<br>　集団の構造要素と機能③<br>②授業概要<br>　集団の機能における活動意欲（モラール）やコンフリクトの必要性などについての学識を深めるとともに（E１）、その特徴について述べることができるようになる（F１、I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、活動意欲（モラール）やコンフリクトの必要性に関する要点について整理する。 |
| 6 | ①授業テーマ<br>　集団の構造要素と機能④<br>②授業概要<br>　集団における社会的手抜きを招く要因や防止するポイントについての学識を深めるとともに（E１）、その特徴について述べることができるようになる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、社会的手抜きを招く要因や防止するポイントに関する要点について整理する。 |
| 7 | ①授業テーマ<br>　リーダーシップとは<br>②授業概要<br>　リーダーおよびリーダーシップの定義や各種リーダーシップスタイルについての学識を深めるとともに（E１）、その特徴について述べることができるようになる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、リーダー・リーダーシップの定義および各種リーダーシップスタイルに関する要点について整理する。 |
| 8 | ①授業テーマ　フォロワーシップとは<br>②授業概要<br>　フォロワーおよびフォロワーシップの定義や各種フォロワーシップスタイルなどについての学識を深めるとともに（E１）、その特徴について述べることができるようになる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、フォロワー・フォロワーシップの定義および各種フォロワーシップスタイルに関する要点について整理する。 |
| 9 | ①授業テーマ<br>　マネジメントの理念①<br>②授業概要<br>　代表的なマネジメント学者（ドラッカー、コトラー等）の理論を参照し（E１）、特にマーケティングの理念、利害関係者（ステークホルダー）との関係、目標設定について説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、マーケティングの理念に関する要点を整理する。 |

| | |
|---|---|
| 10 | ①授業テーマ<br>　マネジメントの理念②<br>②授業概要<br>　代表的なマネジメント学者（ドラッカー、コトラー等）の理論を参照し（E１）、特にイノベーションの理念、利害関係者（ステークホルダー）との関係、観点と方法について説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、イノベーションの理念に関する要点を整理する。 |
| 11 | ①授業テーマ<br>　マネジメントの展開と評価<br>②授業概要<br>　マネージャーの役割とタイプ、コミュニケーションとメディア・トレーニング、チーム型組織設計等に基づくマネジメントの展開、および成果の評価方法について説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、マネジメントの展開と評価方法に関する要点を整理する。 |
| 12 | ①授業テーマ<br>　チームマネジメントの実例①<br>②授業概要<br>　担当者の実務経験を踏まえ、競技スポーツにおけるチームマネジメントの成功例、失敗例を示すとともに、自身の所属チームを照合して（E１）、共通点と相違点を確認し、今後の課題や改善点を説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、チームマネジメントの成功要因、および自身の所属チームにおける今後の課題と改善点を整理する（F１、 I１）。 |
| 13 | ①授業テーマ<br>　チームマネジメントの実例②<br>②授業概要<br>　担当者の実務経験を踏まえ、トップアスリートを対象としたチームマネジメントをロールモデルとして示し（E１）、チーム型組織を構成する様々な役割と連携、およびスポーツ科学によるサポートの実例を具体的に説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、チーム型組織を構成する様々な役割と連携、およびスポーツ科学による貢献に関する要点を整理する。 |
| 14 | ①授業テーマ<br>　チームマネジメントとPDCAサイクル<br>②授業概要<br>　担当者の実経験を踏まえ、チームマネジメントとPDCAサイクルの関係について示し（E１）、これまで学修した実例と対応づけて説明をすることができる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　参考図書の授業テーマに該当する部分を一読し、疑問点などについて整理する。<br>④復習（120分）<br>　講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、チームマネジメントとPDCAサイクルにの関係に関する要点を整理する。 |
| 15 | ①授業テーマ<br>　まとめと授業内レポート<br>②授業概要<br>　14回の講義のポイントを授業内レポート（総括レポート）としてまとめ、セルフマネジメントへの応用方法について説明できる（F１、 I１）。<br>③予習（120分）<br>　14回分の講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、各回のポイントを整理して総括できるように準備する。 |

| | |
|---|---|
| | ④復習（120分）<br>　まとめと授業内レポートの内容を再確認し、チームマネジメントの有効な実践方法、およびセルフマネジメントへの応用と質的向上のための改善点を整理する。 |
| 関連科目 | チームマネジメント論演習（SSCS3630）、スポーツマネジメント演習Ⅰ（SSCS3306） |
| 教科書 | 特に指定しません。 |
| 参考書・参考ＵＲＬ | 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅱ・Ⅲ）<br>山口裕幸著：チームワークの心理学，サイエンス社，2008.<br>P.F.ドラッカー著，上田惇生編訳：マネジメント 基本と原則，ダイヤモンド社，2001.<br>Philip Kotler他著，恩藏 直人監修：マーケティング・マネジメント，丸善出版，2014.<br>エイミー・Ｃ・エドモンドソン著：チームが機能するとはどういうことか，英治出版，2014.<br>スティーブン・Ｐ・ロビンス著，高木晴夫訳：組織行動のマネジメント，ダイヤモンド社，2009. |
| 連絡先・オフィスアワー | ■オフィスアワー　開講時に告知します。<br>オフィスアワー以外の時間は日時を調整の上、研究室、またはコモンスペースで対応します。 |
| 研究比率 | |

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.